



佐渡の未来を育み  
繋がる農業へ



世界農業遺産

「トキと共生する佐渡の里山」

佐渡地域世界農業遺産最新情報→



# 世界農業遺産(GIAHS:ジアス)とは

自然と共生する農林水産業が育む豊かな生態系や美しい景観、伝統文化・芸能などが残されている世界的に重要な地域を国連食糧農業機関(FAO)が認定し、次の世代に継承していくことを目指す制度です。

(GIAHS: Globally Important Agricultural Heritage Systems)



## 佐渡地域の認定

トキとの共生を目指した生きものに優しい米づくり「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」の取組みや棚田などの美しい景観、受け継がれている伝統的な農文化が評価され、2011年に佐渡島全体が「トキと共生する佐渡の里山」として、国内初\*となる世界農業遺産に認定されました。

1981年に一度野生絶滅した日本のトキは、2008年に佐渡で野生復帰を果たし、今では500羽以上が佐渡の里山で人々と共生しています。

\*石川県能登地域の「能登の里山里海」と同時認定

## 佐渡市世界農業遺産ブランドマーク

人々とトキとが未来へ繋がっていく命のたまごを温かく包み、共に育みながら生きている様子を表しており、左側は里山の人々の暮らしを、右側のトキは自然や生き物を象徴しています。このブランドマークを活用することにより、佐渡の里山や生物多様性保全の理念を理解し、実践することで、世界農業遺産の普及・啓発につなげていきます。





# 佐渡の誕生から「佐渡島の金山」の発展と農地開発

佐渡島は300万年前から続く隆起運動によってできた島で、はじめに大佐渡山地と小佐渡丘陵が形成され、その後、二つの島から流れ出す土砂が繋がって国中平野ができたことにより、変化に富んだ地形と標高差が形成されました。この

多様な地形は、稲作や様々な果物などの生産を可能にし、農業の多様性を育てています。この特徴的な地形は2013年に日本ジオパークに認定されました。

17世紀に入ると相川金山が発見され、「佐渡島(さど)の金山」の開発に伴い多くの人々が佐渡へ集まったことから、その食料確保のために海沿いから山間深くまで棚田が形成されました。また、人々の流入とともに、能などの多様な文化が佐渡に持ち込まれました。

「佐渡島の金山」は、高度な手工業による採鉱と生産技術が認められ、2024年7月に世界文化遺産に登録されました。



①



②

①加茂湖と国中平野  
②佐渡島を隆起させた断層の1つ「大須鼻の活断層」  
③相川金銀山 道遊の割戸



佐渡ジオパーク  
推進協議会HP



佐渡島の金山  
(佐渡市) HP



③



①片野尾棚田 ※たんぼは私有地のため立ち入りはご遠慮下さい。

## 特徴的な 土地利用・水利用の仕組み

金山の繁栄に伴い、海沿いから山間深くまで新田開発が行われたことで、島内各地に特徴的な棚田が形成され、現代でもその美しい里山の景観が継承されています。また、急峻な地形で水源の乏しい佐渡では、農業用水を確保するため1,000ヶ所を超えるため池が整備されました。特に水の確保が困難な二見半島では谷間に集まる貴重な水で多くのため池を作り、小木半島の宿根木集落では、横井戸を掘り水源を確保し水田開発を進めました。

②歌島の棚田 ③佐渡棚田米 ④二見半島のため池 ⑤宿根木の横井戸





# 受け継がれる農文化

金山で繁栄した地元経済に支えられ、農業の儀式から様々な伝統文化的習慣が発展しました。

能が武士階級のものと言われていた江戸時代にあって、佐渡の能は農民や商人などの庶民が支えてきました。能舞台は島内に34棟が現存しており、今でもいくつかの能舞台で演能が行われていますが、多くの演じ手はそれを職業として行っているのではなく、農業や家業のかたわら芸を磨き、披露しています。

集落の祭りなどで演じられる鬼太鼓は、魔を払ったり、五穀豊穡・家内安全を祈願したりと大切な役割を担うとともに、集落の人たちの楽しみとなっています。祭りの数週間前から、集落の若者が集まり練習を行うため、集落内のつながりを強める役割も担っています。

佐渡では、能や鬼太鼓が今も生きた文化として継承されています。



①新能 ②鬼太鼓



# と き 朱鷺と暮らす郷

「朱鷺と暮らす郷づくり認証制度」は、「生きものを育む農法」を行う、農薬・化学合成肥料を慣行基準より5割以上減らしてお米を作るなど、環境に配慮した米づくりを行う田んぼを認証する制度です。認証された田んぼのお米は「朱鷺と暮らす郷」ブランドで流通し、売上の一部はトキの野生復帰事業に使われています。

朱鷺と暮らす郷HP

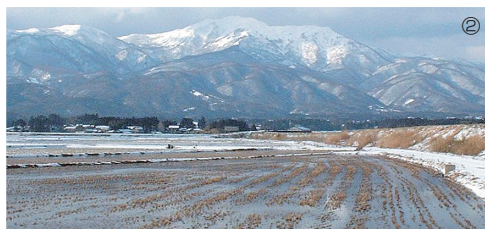


①朱鷺と暮らす郷認証米 ②～④佐渡のトキ



# 生きものを育む農法

農薬や化学肥料を削減するだけでなく、江（水を残す深み）、ピオトープの設置、ふゆみずたんぼなどの水田とその周囲に生きもののための生息環境を作り出す農法です。



①江の設置 ②ふゆみずたんぼ ③魚道の設置 ④ピオトープの設置 ⑤無農薬・無化学肥料栽培



# 次世代への継承

米づくりを通して生物多様性や環境について学ぶ「佐渡Kids生きもの調査隊」、地元農家と市職員が島内の保育園や小学校で「食」と「農」と「環境」の食育授業を実施することにより、農業の次世代への継承を行っています。



①②佐渡 Kids 生きもの調査隊  
③④食育事業



# 豊かな農林水産物と郷土料理



佐渡ふるさと納税  
HP

世界に誇れる佐渡の里山では、多様な生きものを育むとともに、多種多様な農林産物が生産されており、また、沖合いでぶつかり合う暖流と寒流の影響を受けた里海は、多様な水産物に恵まれています。



①おけさ柿 ②寒ブリ ③ル・レクチェ ④いごねり ⑤佐渡牛 ⑥しいたけ

# ACCESS

## ◆佐渡へのアクセス



### 新潟からのアクセス

- カーフェリー（佐渡汽船） 新潟港～両津港 ……2時間30分  
直江津港～小木港 ……2時間40分
- ジェットfoil（佐渡汽船） 新潟港～両津港 ……67分

### 東京からのアクセス（新潟まで）

- JR上越新幹線（東京～新潟） …… 約2時間
- 高速道路（関越・北陸自動車道） …… 約4時間